

〔書 評〕

上野千鶴子『女の子はどう生きるか ——教えて、上野先生！』

(岩波書店, 2021, 224+ix 頁)

軽 部 恵 子

本書は、フェミニズム、女性学、ジェンダーを研究する社会学者の上野千鶴子が著した。著者の経歴と著作については、ここで長々と書き連ねる必要はあるまい。著者は20年近く務めた東京大学を2011年3月に定年となり、2012年度から2016年度までの5年間、立命館大学特別招聘教授として教壇に立った。2011年4月から現在まで、認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)の理事長を務めながら、「上野研究室」(<https://wan.or.jp/ueno>)より情報を発信し続けている。本書の付録「お役立ち BOOKS & MOVIES & UENO'S 図書館」には、著者が推薦する映画、他者の著作とともに、上野千鶴子の名を世に知らしめた著作がまとめられている。ただし、出版年は文庫化等によるものもあり、必ずしも最初の出版年ではない。

データに敏感な社会学者らしく、著者は社会の最先端の問題を取り上げる嗅覚に優れている。近年は介護を取り上げ、配偶者と死別した人、離婚した人、未婚の人などの「おひとりさま」の老後のあり方や「在宅ひとり死」などについて、次々と出版してきた。著者の知見と主張は、2021年3月27日にNHKで放映された「最後の講義 社会学者 上野千鶴子」(<https://>

www.nhk.or.jp/p/ts/4N7KX1GKN7/episode/te/VPZXPJLGW5/) に凝縮されているが、老親を持つ人も、そうでない人も必見である。かつて、介護は長男の妻など女性が担うことが多かったが、近年は様々な理由でそうなるとは限らない。中年の息子が介護離職して、経済的に困窮し、かつ社会的に孤立する事例も出てきている。

本書のタイトルは、児童文学者・ジャーナリストの吉野源三郎が1937年に著したベストセラー『君たちはどう生きるか』を意識している。当然、吉野の「君たち」は男の子が主な対象である。ゆえに、本書は前書き「あなたたちはどう生きるのか——女の子の翼を折らないために」から始まる。「女の子の翼」とは、最年少のノーベル平和賞受賞者マララ・ユスフザイ(2014年受賞)の父の言葉であるという。教育者であるマララの父は、少女たちの夢と希望、能力の可能性を伸ばす人であった。本論は、「1章 学校で、なぜ女子は男子の次?」、「2章 家の中でモヤモヤするのはなぜ?」、「3章 リア充になるってけっこうたいへん?!」、「4章 社会を変えるには?」の計4章から構成される。

本文は、質問と上野先生の説明で展開され、1項目が数頁と短く、読みやすい。読者のニーズや興味に合わせて好きなところから頁を開いてもよいが、各項目の内容はぎっしり詰まっている。長年、国連女性差別撤廃条約の国内実施を研究してきた評者にとっても、頷かされることが多い。

著者の文体は、普段から講演等で著者が話している言葉遣いで語られているが、昭和の語彙から、「リア充」、「ワンオペ(家事・育児)」など、21世紀に誕生した語彙まで幅広く出てくる。社会の動きに対する著者の感度の良さと、キャッチーな語句で幅広い年齢層の読者と聴衆の心を鷲掴みにする能力を端的に示している。読者として、20年後に何個の言葉が生き残っているか、想像してみるのも面白い。

このように、本書は若者向けの岩波ジュニア新書として出版されたが、

上野千鶴子『女の子はどう生きるか——教えて、上野先生！』

内容は政治、教育、雇用、結婚、専業主婦、女子力、性犯罪、対等な性と、多岐にわたり、高校生、大学生から、社会人にまで、示唆を与え、叱咤激励する。各項目には、社会学者らしく、根拠となる統計、法律などが引用されている。本書を読んで様々な事柄に疑問を持った学部生が、ゼミでの発表、ひいては卒論のテーマに展開していくことができよう。大学教員には、講義の「箸休め」となるトリビアのヒントとなり、ゼミでの討論テーマを与えてくれる。何より、女性の大学生の進路相談にあたる上で、これらの項目を知らないでは済まされない。

付録には、2019年度の東京大学学部入学式で著者が新入生たちに贈った祝辞が掲載されている。この祝辞だけで、たっぷりゼミ3回分になるだろう。一方、祝辞としてはきわめて異例であった。新入生とその親にしてみれば、長年の苦勞が実を結んだ証である入学式において、東大生・院生の男性たちが私大の女子学生を集団レイプした事件を聞かされ、これまでの学校生活は「タテマエ平等」であったと言われたのだから。しかし、男性が女性差別の上に生きたことを認識しなければ、女性差別、そしてその他の問題、たとえば障がい者差別や外国人労働者の問題を解決することはできない。

ところで、2021年は日本のジェンダーの不平等が明らかになることが多かった（まだ2カ月半残っているので、これから何か起きるかもしれないが）。2月3日、東京2020オリンピック競技大会は、大会組織委員会会長の森喜朗元首相が日本オリンピック委員会（JOC）臨時評議会の会合で、「女性が多く入っている会議は時間がかかる」という趣旨の発言他を行い、当初は辞任を否定していたが、同月11日には辞任の方向に追い込まれた。森元会長の後任は、自身が議員として育ててきた橋本聖子五輪担当大臣となり、新しい五輪担当大臣には丸川珠代参議院議員が就任して、開催都市の小池百合子東京都知事とともに、組織委員会の主要メンバーが全員女性

となった。3月18日には、開閉会式の演出統括責任者であった佐々木宏クリエティブ・ディレクターが、開会式で女性タレントの容姿を侮辱する演出の提案を行って、グループ内で批判されていたと週刊誌に報道された。佐々木は辞意を表明し、辞任した。

2021年3月30日に世界経済フォーラムが発表した2021年のジェンダーギャップ指数も忘れてはならない。日本は調査対象となった世界156カ国中、120位の低さに甘んじた。ジェンダーギャップ指数は経済参画、政治参画、教育、健康の4分野で評価されるが、政治参画の指数が0.061（完全平等は1.000）、経済参画の指数が0.604であった。国会議員、地方議会議員、閣僚等の人数が大きく関わる政治参画の順位は、156カ国中、147位であった。2021年9月に行われた自民党の総裁選では、4名の候補のうち女性が2名となったが、夫婦別姓選択制の導入や女性・女系天皇の可能性を明言したのは、1名のみであった。

評者が本書に希望するのは、付録にある推奨映画の記述を充実させることである。たとえば、2015年の英国映画『未来を花束にして』は、英国女性参政権運動の中でも急進派だったサフラジェット（Suffragette。映画の原題でもある）を取り上げた。映画の最後で、活動家の1人が、国王ジェームズ5世（エリザベス2世の祖父）も観ていたダービーの会場で、激走する競争馬の前に身を投げる。当時の映像もインターネット上に公開されている。本書の紹介欄には「社会を変えたのは、特別な人ばかりではない、決して。」とあったが、映画の邦題が内容からかけ離れているので、もっと多くの説明が必要であったと評者は考える。本書の映画の記述はどれも1行足らずなので、2行ぐらい割いても、ページ数はそれほど増えないだろう。

同様に、2018年のアメリカ映画『ピリープ 未来への大逆転』の説明もぜひ加筆してほしい。「『法は人間がつくる』ことを教えてくれる。」の

上野千鶴子『女の子はどう生きるか——教えて、上野先生！』

は確かにそうなのだが、主人公が誰か全くわからない。それは、若き日の
ルース・ベダー・ギンズバーグ（RBG）元連邦最高裁判事である。優秀
な RBG はロースクール（法科大学院）を出ても弁護士事務所に就職を断
られ、大学教員となった。弁護士として働く夢を実現し、女性差別を打破
するため、男性の介護控除が認められなかった事件の原告代理人を務め、
勝訴した（女性差別と男性差別は表裏一体であった）。以後、RBG は法律
家として次々と性差別を打ち破っていく。ちなみに、RBG を演じるのは、
2016 年公開の『ローグ・ワン／スターウォーズ・ストーリー』で、反骨の
ヒロインを演じたフェリシティ・ジョーンズである。

RBG についてももう少し続けたい。長年病を患っていた RBG が 2020 年 9
月 18 日に死去し、大統領選挙で再選を目指していたトランプ大統領（当時）
は、RBG の後任として、人工妊娠中絶に反対と目される保守派で 40 代の
エイミー・コニー・バレットを連邦最高裁判事候補として同月 26 日に指
名した。カトリックや福音派の票を固めようとしたのである。公聴会の後、
10 月 26 日、連邦上院本会議は賛成 52、反対 48 のほぼ党派とおりの票数で、
バレット候補の承認を可決した。遡って 2016 年 3 月、オバマ大統領（当時）
は、逝去した A. スカリア連邦最高裁判事の後任として、穏健派のメリック・
ガーランド判事（現司法長官）を連邦最高裁判事候補に指名したが、当時
の共和党上院が、大統領選挙の年に新たな判事を選ぶべきではないと、指
名承認のための公聴会を開催しなかったのであった。今年、テキサス州で
は妊娠 6 週目以降の人工中絶を禁止する州法が発効し、9 月初め、バイデ
ン政権は同法を違憲としてテキサス州政府を訴えた。連邦最高裁で最終的
にどう判断されるか、予断を許さない。上野の書には性に関する項目も複
数あるので、参考にしてほしい。

最後に、日本の女性差別、そしてジェンダーの不平等はきわめて深刻で
ある。1991 年の育児休業法（当時）の制定から 30 年が経過して、2020 年

にようやく男性の休業取得者が10%を超え、12.65%となった（休業の長さについては問わない）。政府は、女性活躍推進の目標「202030」（2020年までに女性管理職30%）を掲げていたが、2020年7月に年度中の達成を断念し、そのままになっている。2020年9月に成立した菅義偉内閣での女性閣僚は2名にとどまり、「202010」となった。2021年10月に成立した岸田文雄現内閣では男性18名、女性3名であったので、「202014」である。2021年公開の映画『総理の夫』（原作は、2013年に発表された原田マハの同名小説）では、中谷美紀演ずる相馬凜子内閣の内訳が、男性閣僚15人、女性閣僚8人と、「202030」を超え、女性閣僚の割合が約35%となっていた。日本には上野千鶴子の叱咤激励がまだ当分必要そうである。